

令和3年度(第54回)

釧路市スポーツ賞

山辺 文彰氏



当協会の前副会長で、釧路ハンドボール協会顧問の山辺文彰氏(76歳)が永年にわたるハンドボール競技の普及振興に貢献された功績が認められ、令和3年度釧路市スポーツ賞を受賞されました。

山辺氏は昭和63年から31年間、釧路ハンドボール協会理事長として活躍され、特に平成元年から14年間、日本大学ハンドボール部のコーチ・選手を招いて高校生のための講習会を企画運営されるなど、全国の優秀な選手・指導者を招へいし、学生の指導・育成に力を注がれるとともに、長く指導者として携わり、多くの有力選手を輩出されました。

審判員としても日本ハンドボール協会の上級審判員として高い審判技術を評価され、数多くの全国大会で活躍されるとともに、北海道ハンドボール協会、北海道学生ハンドボール連盟の要職を歴任され、本市はもとより北海道におけるハンドボール競技の発展に大きな功績を残されています。

また、本協会の役員として、平成5年から理事、平成29年から令和3年4月まで副会長と釧路市スポーツ少年団本部長を歴任し、その豊富な知識と経験を生かし、本市におけるスポーツの普及振興やスポーツを通じた青少年の育成にも多大な貢献をされました。

授与式は令和3年10月27日(水)、釧路市議会議場(釧路市役所2階)で行われました。式辞で岡部義孝教育長は「この度の榮譽を一つの通過点とされ、釧路市のスポーツを更なる高みに導くけん引役として、なお一層ご活躍いただきたい」と挨拶し、受賞者の山辺氏は「ただ、自分の好きなスポーツを精一杯続けてきただけです。今後はハンドボールの成長と釧路市のあらゆるスポーツが充実発展されるよう祈念いたします」と挨拶しました。

菅原 賢司氏 スポーツ協会功労者逝く

ご功績を偲び心からご冥福をお祈り申し上げます



菅原賢司氏は平成22年から釧路柔道連盟の会長として組織をけん引し、柔道界の発展や競技力向上に多大なる貢献をされてきました。

柔道は高校から始め、大学卒業後、当時イギリスの支配下に置かれていた香港柔道館で柔道を指導しました。また、地域活動を大事にし大楽毛児童センターや釧路高専など

でも指導されておりました。柔道を通じて大勢の人と出会い、試合での緊張感、教えを通じての人間関係を大事にされ、熱い思いをもって取り組んでおられました。

釧路市スポーツ協会副会長を平成25年から務め、張江前会長、足立会長を支えるとともに、釧路市のスポーツ振興、発展に大きな足跡を残されました。

(令和4年1月1日 行年79歳でご逝去)

永年の功績を讃えて 令和3年度 鉚路市スポーツ協会 功労賞

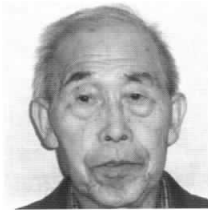
令和3年度功労賞は鉚路カーリング協会の千葉八重子氏、鉚路サイクリング協会の平野明氏、平野精一氏（故人）の3人が受賞されました。

表彰式は例年、鉚路市体育祭総合開会式で行っていますが、本年度は新型コロナウイルスの関係から開会式を中止としたため、千葉氏には10月9日（土）交流プラザさいわいにて、鉚路カーリング協会総会前に協会の役員、会員が見守るなか、藤原節男副会長から授与いたしました。同日、平野明氏の自宅と平野精一氏のご遺族の自宅を訪問し藤原副会長から授与いたしました。



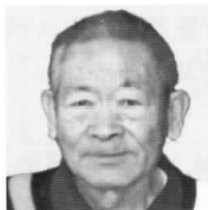
千葉 八重子 氏 (79歳) 鉚路カーリング協会理事

平成3年に審判員資格、指導員資格を取得し、鉚路市や道内の各種大会で審判員として活躍し、平成10年には長野オリンピックカーリング競技の審判員を務めました。役員として若手選手の育成、カーリングの普及活動、円滑なる大会運営に尽力するなど、協会の発展に寄与しており、その功績は誠に大であります。



平野 明 氏 (88歳) 鉚路サイクリング協会理事長

日本サイクリング協会の公認指導者資格でありますサイクリング・インストラクターを有して、全道や市内などの各種大会運営を行うとともに、自転車の正しい乗り方や交通安全指導等にも力を注いでいました。現在も協会の要として重要な役割を担っており、その功績は誠に大であります。



平野 精一 氏 (故人) 鉚路サイクリング協会理事

日本サイクリング協会の公認指導者資格サイクリング・インストラクターとして、各種大会の運営に携わっていました。雄別炭鉱鉄道の跡地を利用した自転車歩行者専用道路建設に向け奔走し、自然豊かな鉚路阿寒サイクリングロードが昭和51年に開通し、今もここを利用しサイクリングを楽しんでおり、その功績は誠に大であります。

令和4年度スポーツ施設整備要請活動

鉚路市長・鉚路市教育委員会教育長・鉚路市議会議長へ（11月30日）

新年度予算編成に向け、スポーツ施設の整備に関する要望について、足立会長、北村副会長、藤原副会長が令和3年11月30日に鉚路市役所を訪れ、蝦名市長、岡部教育長、松永議長に令和4年度要請書を手渡しました。

要請書は「スポーツ施設の計画的な補修・改修及び備品整備について」として加盟団体からの53要望項目と「柳町スピードスケート場屋内化の早期検討について」として、自然条件に左右されず、競技環境の飛躍的向上が期待でき、夏・冬の通年利用が可能となる、柳町スピードスケート場の屋内化への早期検討について要請

しました。

足立会長は「加盟団体からの要望である施設の補修・改修とルール改正や大規模大会に対応できる備品整備をお願いしたい。柳町スピードスケート場の屋内化はスポーツを親しむ子どもたち、そして水都鉚路維持のため、早期に検討していただきたい」と訴えました。



令和3年度釧路管内スポーツ協会連絡協議会 資質向上研修会

釧路管内8市町村のスポーツ協会で組織する釧路管内スポーツ協会連絡協議会は釧路市スポーツ協会が担当し、11月13日に湿原の風アリーナ釧路で「資質向上研修会」を開催しました。

競技力の向上、地域スポーツの振興と連携強化を目的とするこの研修会には役員ら28名が参加し、講演と実技が行われました。

講演は「k-Bizの考え方のご紹介」との演題で、地域経済のプラス成長と雇用の創出を図るため、事業者が抱える悩みやチャレンジをサポートする無料産業支援相談所「釧路市ビジネスサポートセンター k-Biz」のセンター長澄川誠治氏が、センターでの支援事例の相談内容、ディスカッション、サポート、成果までの一連を紹介するとともに、スポーツ人口の推移や課



題などについて話されました。

実技は「いつでも、どこでも、誰でも出来るユニバーサルスポーツ“ディスコン”」と題し、釧路市スポーツ振興財団社会体育指導員の佐藤裕子氏が指導しました。

ディスコンは岡山市立少年自然の家で発想された、日本生まれのニュースポーツで、赤と青に分かれ、1チーム6枚の円盤を投げ、どちらがポイントに近づいているかを競います。ポッチャに似ており、円盤は片面が赤、片面が青でチームの色を投げます。投げるたびに一喜一憂し、実り多い研修となりました。



***** 第42回北海道中学校剣道大会(釧路市開催)女子団体 鳥取中 優勝 *****

第42回北海道中学校剣道大会が令和3年7月31日・8月1日の2日間、湿原の風アリーナ釧路で開催され、女子団体の部で鳥取中学校が優勝しました。鳥取中は団体戦出場人数ぎりぎりの部員数5人で挑み、1次リーグで下川中(上川)、恵明中(石狩)を相手に無敗で予選を突破し、準決勝は北都中(札幌)に3勝0敗とし決勝へ進出しま

した。決勝は新十津川中(空知)と対戦し、2勝2分1敗と少数精鋭で全道の頂点を射止めました。



釧路新聞社提供

全道小学生アイスホッケー選手権大会 釧路市開催 準V 昭和小 3位 ウエストライジング

第42回全道小学生アイスホッケー大会が令和4年1月8日から3日間、ひがし北海道クレインズアイスアリーナで14チームがトーナメント方式で熱戦を繰り広げ、家族・同居人、ベンチ入り以外の選手が試合観戦できる「限定付き無観客」で、釧路からはWR(ウエストライジング)、鳥取小学校アイスホッケー同好会、鳥取西小学校アイスホッケー同好会、昭和小アイスホッケー同好会の4チームが出場



ウエストライジング

し、WRと昭和小が準決勝進出を決めました。準決勝はWRがBURNING BULLETと対戦し、1対9で敗れ3位決定戦へ、昭和小は幕別浦幌と対戦し10対5で勝利し決勝進出を決めました。最終日の3位決定戦ではWRが幕別浦幌と対戦し、優位に試合を進め4対2で勝利し、決勝では昭和小がBURNING BULLETと対戦し、2点を先制するも2対3で逆転負けし2年連続の準優勝でした。



昭和小アイスホッケー同好会

釧路市スポーツ協会役員

令和3年の評議員会において役員改選がありましたので、お知らせいたします。

役職名	氏名	選出団体
名誉会長	清水 幸彦	バウンドテニス・ハンドボール(名誉会長)
顧問	張江 悌治	陸上(名誉会長)ソフトボール(名誉顧問)
会長	足立 功一	アイスホッケー(会長)
副会長	北村 剛	阿寒支部(支部長)
副会長	藤原 節男	剣道(会長)
専務理事	海老名正一	学識経験者
理事	早坂 勝則	阿寒支部(副支部長)
理事	眞籠 敏夫	音別支部(支部長)
理事	大道 裕昭	陸上(理事長)
理事	小林 祥江	軟式野球(副理事長)
理事	石山 道子	ソフトテニス(副会長)
理事	山本 満	卓球(理事長)
理事	松野 清佳	バレーボール(理事長)
理事	金子 洋昭	バスケットボール(理事長)
理事	五十嵐克仁	スキー(理事)
理事	伊藤 寿章	柔道(理事長)
理事	平田 政之	スケート(理事長)
理事	奥田 真由	剣道(理事長)
理事	八城 雅彦	サッカー(理事長)
理事	坂本 久吾	ソフトボール(理事長)
理事	笹川 賢俊	ハンドボール(理事長)
理事	小松 右視	アイスホッケー(副理事長)
理事	山下 茂	バドミントン(副理事長)
理事	佐藤 和明	空手道(理事長)
理事	今野 顕二	パークゴルフ(会長)
監事	橋本勢津子	弓道(会長)
監事	佐藤 茂樹	ボウリング(副支部長)
評議員	加盟団体から各1名 阿寒・音別支部から各2名	

第76回体育祭開催

昨年度(第75回)は中止したため、2年ぶりの開催となりました。

口減少への対応について」の提案事項9項目について、協議、推進していきます。また、加盟団体を夏季競技、冬季競技、通年競技、武道競技の4つに分け、提案事項9項目について意見を聴く会議を12月に開催しました。今後は加盟団体の意見を参考に協議を進めていきます。

辛さを感じる。

常はいつ戻るのか、先の見えない状況で、感染対策を講じ、ただただ耐える日々が続く。いつもの日常はいつ戻るのか、先の見えない辛さを感じる。

令和3年度も新型コロナウイルスの影響で無観客試合が多く、観戦、写真撮影が出来ない1年となった。▲ただ、ライブ中継をする試合、大会があり、テレビ、パソコンの前にいる時間が今年も長かったが、地元開催の試合はやはり会場で観戦したい。令和4年度こそ会場に行けることを願うばかりである。▲1年遅れの夏季と冬季のオリンピック・パラリンピックは東京、北京での開催のため、時差を気にせずテレビにくぎ付けの日々だったが、テレビから流れる大歓声により、わくわくする一体感を早く味わいたいものである。

▲1月に予定していた全国中学校アイスホッケー大会が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大会前日に中止、全日本少年アイスホッケー大会(中学生男子)も3年連続中止となった。残念。▲釧路市内も様々なイベントが中止となり、街の賑わいを取り戻せない状況下で、感染対策を講じ、ただただ耐える日々が続く。いつもの日常はいつ戻るのか、先の見えない辛さを感じる。

ひがし北海道クレインズ 全日本2連覇

第89回全日本アイスホッケー選手権大会(A)は令和3年12月16日から19日まで、長野市のビッグハットで2年ぶりに社会人、大学が参加して開催しました。

ひがし北海道クレインズは準々決勝から登場し、日本製鉄室蘭アイスホッケー部を5対1で撃破、準決勝では栃木日光アイスバックスと対戦し、ゲームウイニングショットまでもつれこむ激戦を3対2で制しました。決勝は2年連続で東北フリーブレイズと激突し、序盤2点のリードを許すも、4連続得点で一気に逆転し、リードを保ちつつ、6対5で栄冠を勝ち取りました。2年連続優勝は日本製紙が2010年から4連覇して以来の快挙です。



スポーツ普及促進部会を設置

令和3年8月にスポーツ普及促進の事業推進を目的に、スポーツ普及促進部会を設置しました。部会長は藤原副会長がなり、委員は理事10名で構成されました。第1回目の会議は新型コロナウイルス感染拡大の影響で11月10日に開催し、副部会長に大道理事が指名されました。部会は当面、スポーツ振興調査研究部会から報告された「少子化に伴うスポーツ人

編集後記

